第９章　延焼拡大・避難状況

１　延焼拡大状況

○　建物用途の延焼拡大率は、12 項イの「工場等」が 23.7％で最多。
○　火元建物から他の建物に延焼した火災が 136 件発生。

⑴　火元建物内の延焼拡大状況

ここでとりあげる「延焼拡大」とは、火元が建物の火災のうち部分焼以上に延焼拡大した火災をいいます。

令和７年中の「延焼拡大」した火災は 561 件で、建物から出火した火災（3,698 件）に占める割合（延焼拡大率）は 15.2％となっています。

ア　用途別火災状況及び出火室の延焼拡大理由

火災が 10 件以上発生した建物の主な用途別に延焼拡大率をみたものが表 9-1-1 です。

また、出火室の延焼拡大経路をみたものが表 9-1-2 です。

表 9-1-1　火災 10 件以上用途別延焼拡大率

政令用途等		建物の焼損程度 全件数	部分焼以上件数	延焼拡大率（％）
政令用途	12 項イ（工場等）	76	18	23.7
	14 項（倉庫）	26	5	19.2
	5 項ロ（共同住宅等）	1,312	227	17.3
	3 項ロ（飲食店）	438	69	15.8
政令用途以外	付属建物等	23	12	52.2
	空家	13	4	30.8
	住居	583	154	26.4

表 9-1-2　出火室の延焼拡大経路

出火室の延焼拡大経路		件数	半焼以上件数
合計		561	138
家具調度品・商品材料等		141	24
家具調度品・商品材料等	→天井	113	24
	→天井→小屋裏	30	23
	→小屋裏等	2	2
内壁	→天井	140	21
	→天井→小屋裏	30	20
	→小屋裏等	8	3
ふすま・障子・カーテン等	→天井	14	4
	→天井→小屋裏	2	2
	→小屋裏等	1	1
天井		7	1
天井→小屋裏		13	4
小屋裏・天井裏・壁内・土台等		7	3
その他		33	－
不明		20	6

イ　他室への延焼拡大経路

水平方向の延焼拡大経路についてみていきます。出火区画外へ延焼しなかった火災 389 件を除き、他室へ延焼した火災 172 件の延焼拡大経路についてみたものが表 9-1-3 です。

表 9-1-3　他室への延焼拡大経路

他室への延焼拡大経路	建物構造					
	合計	耐火造	準耐火造	防火造	木造	その他構造
合計	172	40	15	88	16	13
開いている開口部	69	26	7	28	4	4
閉まっている開口部（その他）	28	3	2	18	4	1
壁の燃え抜け	28	－	2	18	6	2
区画のない小屋裏部	10	－	－	10	－	－
閉まっている開口部（防火設備）	3	1	－	2	－	－
不完全な小屋裏部	3	－	1	1	－	1
壁の穴	2	1	1	－	－	－
その他	29	9	2	11	2	5

ウ　他階への延焼拡大経路

他階への延焼拡大経路についてみていきます。他階へ延焼拡大しなかった 434 件を除いた 127 件の延焼拡大経路をみたものが表 9-1-4 です。

表 9-1-4　他階への延焼拡大経路

他階への延焼拡大経路	建物構造					
	合計	耐火造	準耐火造	防火造	木造	その他構造
合計	127	29	9	70	12	7
壁内	27	1	1	21	3	1
床の燃え抜け	22	－	1	16	3	2
その他の階段	22	2	3	16	－	1
外壁の開口部	20	12	2	5	1	－
ダクト	6	4	－	1	－	1
床の穴	3	－	1	2	－	－
吹抜部分	3	1	－	1	1	－
その他	24	9	1	8	4	2

○　出火室の延焼拡大経路をみると、小屋裏まで延焼拡大した火災は 93 件（16.6%）発生し、そのうち 58 件（62.4%）が全焼、半焼にまで延焼拡大。

○　他室への延焼拡大経路をみると、「開いている開口部」が 69 件（40.1%）で最多。

○　他階への延焼拡大経路を建物構造別にみると、防火造・木造が 82 件（64.6%）を占めており、そのうち延焼拡大経路では「壁内」が 24 件（29.3%）で最多。

⑵　類焼建物への延焼状況

ア　建物構造別及び隣棟間隔別延焼状況

建物から出火し、他の建物（最初の類焼建物）へ延焼した火災 136 件（3.7%）の延焼要因についてみていきます。類焼建物の構造と焼損程度をみたものが表 9-1-5 です。

また、隣棟間隔と類焼建物の構造についてみたものが表 9-1-6 です。

表 9-1-5　類焼建物の構造と焼損程度

類焼建物構造	類焼建物の焼損程度				
	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや
合計	136	14	8	62	52
耐火造	12	－	－	7	5
準耐火造	19	－	1	9	9
防火造	58	5	6	30	17
木造	2	－	－	1	1
その他構造	45	9	1	15	20

表 9-1-6　建物の隣棟間隔と類焼建物の構造

類焼建物構造	火元・類焼建物の間隔						
	合計	1m 未満	1m 以上 2m 未満	2m 以上 3m 未満	3m 以上 4m 未満	4m 以上 5m 未満	5m 以上
合計	136	19	60	27	18	4	8
耐火造	12	－	9	2	1	－	－
準耐火造	19	3	7	3	2	2	2
防火造	58	7	27	15	6	2	1
木造	2	－	1	－	－	－	1
その他構造	45	9	16	7	9	－	4

○　類焼建物で全焼、半焼にまで延焼拡大した火災 22 件を構造別でみると、防火造が 11 件（50.0%）、その他構造が 10 件（45.5%）、準耐火造が１件（4.5%）発生。

○　隣棟間隔が１ｍ以上２ｍ未満の建物に延焼した火災が 60 件（44.1%）で最多、そのうち防火造が 27 件（45.0%）で最多。

○　隣棟間隔が５ｍ以上の建物に延焼した火災は８件（5.9%）発生し、そのうちその他構造が４件（50.0%）で最多。

イ　類焼建物の延焼箇所

類焼建物のどの部分に延焼したのかをみたものが表 9-1-7 です。

表 9-1-7　類焼建物の延焼箇所

類焼建物の構造	類焼建物の延焼箇所											
	合計	外壁						開口部	屋根面	軒裏		その他
		モルタル	金属板	板張り	グラスライト	外壁の破損部分	外壁のない部分			防火構造	その他	
合計	136	41	5	4	1	1	1	38	6	3	4	32
耐火造	12	5	－	－	－	－	－	1	－	－	－	6
準耐火造	19	8	－	1	－	－	－	7	1	－	－	2
防火造	58	21	1	1	1	－	－	20	2	2	3	7
木造	2	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
その他構造	45	6	4	2	－	1	1	10	3	1	1	16

○　類焼建物の延焼箇所では、外壁が 53 件(39.0%)で最多、次いで開口部の 38 件(27.9%)。
○　建物構造別にみると、耐火造では「その他」が６件（50.0%）で最多、準耐火構造では「外壁」が９件（47.4%）で最多、防火造でも「外壁」が 24 件(41.4%)で最多

2　避難状況

○　建物から出火し 50 人以上の避難した火災は 29 件発生。
○　避難上の支障理由は、「廊下が火煙で利用できなかった」が最多。

(1)　避難行動のあった火災

ここでとりあげる「避難」とは、建物から出火した火災 3,698 件で、出火時に火元建物から避難行動があった火災をいいます。ただし、避難階からのみ避難行動が行われた火災は除きます。

避難行動があった火災は、487 件（13.2%）発生しています。

ア　用途別避難状況

用途別に避難状況をみたものが表 9-2-1 です。

表 9-2-1　用途別避難状況

出火した用途				合計	10人未満	10～19人	20～29人	30～39人	40～49人	50～59人	60～69人	70～79人	80～89人	90～99人	100～199人	200人以上
合計				487	366	44	20	21	7	8	3	3	1	2	7	5
一項	イ	映画館		1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
		観覧場		1	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
二項	イ	カフェー		1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		ナイトクラブ		1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		その他		1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	ニ	カラオケボックス等		1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
三項	ロ	飲食店		91	57	14	3	8	2	2	3	－	－	1	1	－
四項		物品販売店舗		9	5	2	－	1	－	1	－	－	－	－	－	－
五項	イ	旅館		1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		ホテル		4	1	－	－	1	－	－	－	－	－	－	2	－
		宿泊所		1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	ロ	寄宿舎		4	2	－	－	1	－	－	－	－	－	－	1	－
		共同住宅		191	150	19	9	5	2	3	－	1	－	－	1	1
六項	イ	(1)	特定病院	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		(3)	病院（特定病院以外）	2	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－
		(4)	診療所（患者入院施設を有しないもの）	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	ロ	(1)	養護老人ホーム	1	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－
			有料老人ホーム（要介護者入居）	1	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
			介護老人保健施設	1	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－
		(2)	救護施設	1	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－
	ハ	(3)	保育所	3	1	1	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－
		(5)	福祉ホーム	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
			放課後等デイサービスを行う施設	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
七項		小学校		2	1	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－
		中学校		1	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		高等学校		5	－	1	－	－	－	1	－	－	－	－	－	3
		大学		2	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－
九項	イ	熱気浴場		2	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
十二項	イ	工場		4	2	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		作業場		9	7	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
十四項		倉庫		2	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
十五項		官公署		1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		事務所		11	2	－	3	3	1	－	－	1	－	－	1	－
		その他事業所		6	4	－	－	－	－	1	－	－	－	－	1	－
共用部分（機械室等）				5	4	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
空家				1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
使用中建物の空室部分				1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
使用中建物の工事部分				1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
住居				100	99	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
複合用途の住宅部分				14	14	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
焼損程度	全焼			23	22	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	半焼			39	39	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	部分焼			201	151	26	6	4	3	5	1	1	－	－	2	2
	ぼや			224	154	17	14	17	4	3	2	2	1	2	5	3

○　避難のあった火災の多くは、共同住宅や住宅などの居住系の用途で 309 件（63.4%）発生。
○　避難人員が 50 人以上発生した火災は 29 件（6.0%）で、飲食店、ホテルなどの不特定多数の人が出入りする建物や共同住宅、事務所などの建物で発生。
○　避難人員が 200 人以上の火災は５件（1.0%）発生。

イ　避難上支障のあった火災

避難上支障のあった火災は 32 件（6.6%）発生しており、階層別の避難上の支障理由をみたものが表 9-2-2 です。

表 9-2-2　避難上の支障理由

避難上の支障理由	合計	出火階	出火階の直上階	出火階の直上階以外の上階	出火階の直下階
合計	32	19	9	2	2
廊下が火煙で利用できなかった	8	5	1	2	－
火災に気づくのが遅かった	7	4	3	－	－
自力避難が困難	3	1	1	－	1
避難時期が遅かった	2	1	1	－	－
報知がなされなかった	2	1	1	－	－
その他	10	7	2	－	1

注　その他には、「避難方法が分からなかった」、「支障理由がその他」などがあります。

○　避難上支障があった階層をみると、「出火階」が 19 件（59.4%）で最多、「出火階の直上階」が９件（28.1%）、「出火階の直上階以外の上階」及び「出火階の直下階」が各２件（6.3%）。
○　避難上の支障理由は、「廊下が火煙で利用できなかった」が８件（25.0%）で最多
○　避難上の支障理由を階層別にみると、出火階では「廊下が火煙で利用できなかった」が５件（26.3%）で最多。

⑵　施設別の避難状況

ア　階段別の避難状況

階段の種類別に避難に支障があった状況をみたものが表 9-2-3です。階段の不使用が3件発生しています。

表 9-2-3　階段の種類別に避難に支障があった状況

使用状況		階段の種類別					
		合計	屋内階段	屋外階段	屋外避難階段	屋内避難階段	特別避難階段
不使用	合計	34	17	14	3	－	－
	階段へ煙が入った	7	4	3	－	－	－
	階段へ延焼した	6	6	－	－	－	－
	階段から出火した	1	－	1	－	－	－
	その他	20	7	10	3	－	－

○　不使用であった 34 件の内訳をみると、屋内階段が 17 件（50.0%）、屋外階段が 14 件（41.2%）発生
○　不使用の理由をみると、「階段へ煙が入った」が７件（20.6%）で最多、次いで「階段へ延焼した」が６件（17.6%）発生。

イ　階段以外の避難方法

階段以外の避難があった火災 76 件についてみたものが表 9-2-4 です。

表 9-2-4　建物区分別の階段以外の主な避難方法

階段以外の主な避難方法	建物区分					
	合計	3階以下の階	4階以上の階			
			内廊下に面して室のある建物（ホテル等）	外階段に面して室のある建物（廊下式共同住宅等）	廊下がなく階段に面して室のある建物	各階に広いスペースのある建物（百貨店・劇場）
合計	76	38	21	10	6	1
エレベータを利用した	22	－	12	6	3	1
消防隊に救助された	18	12	1	2	3	－
窓から直接	12	10	1	1	－	－
一般人に救助された	3	3	－	－	－	－
はしご	2	－	2	－	－	－
その他	19	13	5	1	－	－

○　階段以外の避難があった火災では、３階以下の階からの避難が 38 件（50.0%）で最多、そのうち「消防隊に救助された」が 12 件（31.6%）で最多。

○　階段以外の主な避難方法で最も多いのが、「エレベータを利用した」が 22 件（28.9%）、次いで「消防隊に救助された」が 18 件（23.7%）、「窓から直接」が 12 件（15.8%）など。

○　「エレベータを利用した」火災 22 件は、全て４階以上の建物からの避難であり、そのうち内廊下に面して室のある建物（ホテル等）は 12 件（54.5%）で５割以上を占める。